

Changes in Mini-Mental State Examination score in Alzheimer's disease patients after stopping habitual drinking.

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2013-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 戸田, 愛子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001337

順天堂大学 博士(医学)

氏名 戸田 愛子

論文題名 Changes in MMSE score after stopping habitual drinking in Alzheimer's Disease patients

(アルツハイマー型認知症患者における断酒後のMMSE得点の変化)

論文内容の要旨

認知症を発症するリスク要因としてのアルコールに関する研究は多いが、アルツハイマー型認知症 (Alzheimer's Disease ; AD) と診断された患者とアルコールの断酒に関する研究はほとんどみられなかった。本研究では、AD 患者が断酒した際の認知機能の変化を検討することを目的とした。

海馬を含む一般的な皮質萎縮 (MRI ; magnetic resonance imaging) 及び、頭頂葉、後部帯状回と楔前部の血流低下 (SPECT; single photon-emission computed tomography) がみられ、DSM-IV (the Diagnostic and Statistical Manual for Mental Disorders, 4 th edition) 及び NINCS-ADRDS (the Alzheimer's Disease and Related Disorders Association) の基準により AD と診断された患者を、習慣的飲酒歴のないコントロール群、習慣的飲酒歴があり AD と診断された後に断酒したアルコール群とし、ベースライン・半年後・一年後の認知機能 (MMSE ; Mini Mental State Examination) を調査した。次に、アルコール群のみにおいて、断酒前のアルコール飲酒量により多群と少群に分け、同様に調査した。コントロール群とアルコール群を独立変数とした3時点の MMSE 得点において、また、アルコール消費量の多群及び少群を独立変数とした3時点の MMSE 得点において二要因反復測定分散分析を行い、多重比較に Bonferroni 法を用いた。

その結果、ベースラインの MMSE 得点におけるコントロール群とアルコール群に有意な差はみられなかったが、コントロール群のみ、ベースライン時よりも半年後の MMSE 得点、及び一年後の MMSE 得点が有意に低かった。また、アルコール消費量による比較では多群においてのみベースライン時よりも一年後の MMSE 得点が有意に低かった。

本研究では習慣的飲酒歴を持ち AD と診断された後に断酒した場合、一般的な AD と比べ一年後の認知機能の低下が少ないこと、そしてこの断酒の効果は習慣的飲酒量少群で明らかになったことが示唆された。